

水稲の生育状況（7月25日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2022年7月26日

1 生育状況

7月25日現在の水稲の生育状況は、平年値(2012～2021年までの過去10年平均)と比べて、表1のとおりです。

表1 水稲の生育状況(7月25日現在)

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ	5月下旬から 6月上旬*	同等	多い	同等
	6月中旬**	やや長い	少ない	やや薄い
キヌヒカリ	5月下旬から 6月上旬	同等	多い	やや薄い
	6月中旬	長い	やや多い	同等
てんこもり***	6月上旬	同等	同等	やや薄い
	6月中旬	長い	やや多い	同等

*2014～2021年までの過去8年平均との対比 **2015～2021年までの過去7年平均との対比

***2018～2021年までの過去4年平均との対比

2 栽培上の留意点

気象庁が7月21日に発表した1か月予報(7/23-8/22)では、気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並」、日照時間は「ほぼ平年並」となっています。今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

(1) 出穂期

出穂期は、7月25日現在の生育状況と今後の気象予報から平年並みと考えられます。

(2) 追肥(穂肥)

追肥は、稲の生育調整と後期の生育維持のために実施します。追肥時期は幼穂の長さから判断し、施用量は水稲の品種や生育状況、天候や水田の特性により調整を行います。標準的な追肥時期及び施用量は表2のとおりです。

6月上旬植えは追肥の施用時期を迎えているので、幼穂長を確認してから施用しましょう。

【表3参照】

※幼穂長の測定方法は、次のページを参照

※基肥に緩効性肥料(てまいらず等)を使用した場合は、追肥は基本的に不要です。

表2 追肥時期と施用量

はるみ	時期：出穂期の15日前頃 【幼穂長15～20mm程度】 施用量(10a当たり)：窒素成分2kg(例『化成肥料17-0-17』：約12kg)
キヌヒカリ	時期：出穂期の20～15日前頃【幼穂長2～20mm程度】 施用量(10a当たり)：窒素成分2kg(例『化成肥料17-0-17』：約12kg)
てんこもり	時期：出穂期の20日前頃【幼穂長2mm程度】 施用量(10a当たり)：窒素成分3kg(例『化成肥料17-0-17』：約18kg)

ア 施用時期及び施用量の判断

- ・ 葉色が濃い、茎数が多い、草丈が長い場合は施用時期をやや遅らせませす。
- ・ 多日照・高温傾向、乾田・漏水田などの場合は施肥量をやや多くします。

イ 幼穂長の測定方法

- (ア) 株の中で草丈が一番長く、太い茎を根元から抜く。
- (イ) カッター等で茎を縦方向に切る。
- (ウ) 幼穂の基から先端までの長さを測定する【写真1】。
※手を切らないように注意！



幼穂長の計測【写真1】

(3) 水管理

穂ばらみ期から登熟初期（出穂期 15 日前から出穂期 10 日後）までの期間は、稲が最も水を必要とする時期なので、水を切らないように注意します。出穂後に高温が続く場合には、かけ流しかん水等を行い、高温障害による白未熟粒等の発生を回避します。

(4) 病虫害防除

ア 斑点米カメムシ類

カメムシ類【写真2】に吸汁されると玄米に斑点が生じることがあります。【写真3】カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底することが有効です。ただし、出穂期頃の除草は、カメムシ類を水田に追い込むことになるため、畦畔雑草の除草は出穂 10 日前までに必ず終わらせましょう。

イ 紋枯病【写真4】

紋枯病は、高温・多湿条件で多発します。「はるみ」や「キヌヒカリ」は紋枯病にやや弱いため、発生に注意してください。多発すると倒伏しやすくなるので、必要に応じて防除します。常発地では穂ばらみ期までに防除を行いましょう。

ウ 籾の褐変【写真5】

出穂期前後の強い降雨、強風及び高温の条件下では、籾枯細菌病、内穎褐変病といった病気や褐変症状が発生しやすいので注意してください。常発地では、出穂期前に薬剤散布を行いましょう。



ホソハリカメムシ【写真2】



斑点米【写真3】



紋枯病【写真4】



籾の褐変の様子【写真5】

エ トビイロウンカ【写真6】

今年、4月下旬に宮崎県で、5月下旬には静岡県で飛来が確認されています。今後の気象条件によっては、飛来量が多くなる恐れがあります。今後の発生状況に注意してください。

オ スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）【写真7・8】

スクミリンゴガイの発生地域が拡大しています。スクミリンゴガイのほ場内への侵入を防ぐため、水口と水尻には6～9mm目合いの網を設置しましょう。また、スクミリンゴガイの密度を減らすために、水田や水路に貝を発見したら捕殺し、ピンク色の卵（卵塊）は潰しましょう。

カ その他

その他の病害虫対策については、病害虫防除部が発信している「令和4年度病害虫発生予察情報」を参照してください。

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2022_3_31.html



トビイロウンカによる坪枯れ症状【写真6】



スクミリンゴガイの卵塊



スクミリンゴガイ【写真8】

【写真7】

(5) 農作業中の熱中症に注意しましょう！

農作業中の熱中症に注意してください。熱中症の予防には日中の気温が高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょう。のどが渴いていなくてもこまめに水分補給するとともに、帽子の着用や、汗を発散しやすい服装に心がけましょう。

高温多湿の環境下でのマスク着用は熱中症のリスクが高まりやすいです。屋外で人と十分な距離を確保できる場合は、マスクを外しましょう。

(6) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避、軽減のため、次の対策が有効です。

台風などの大雨の際に、水田等を見回ることは大変危険です。 気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、安全な状況になるまでは行わないようにしましょう。

ア 事前防止対策

- ・ 用排水路に詰まり等が無い点検します。定期的に清掃を行うことで、浸水及び冠水時の速やかな排水に備えます。
- ・ 台風前に水田の水を深く張り、倒伏や急性萎ちょうを防ぎます。

イ 事後対策

- ・ 損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保ちます。
- ・ 風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は動噴等を利用して真水を散布し、洗い流します。
- ・ 台風通過後に病害虫が発生することがあるので、病害虫防除部の情報に注意します。

【参考】

表3 農業技術センター（平塚市）での過去10年(2012～2021年)平均値

作期	品種名	追肥時期	水を切ってはいけない期間	出穂期	成熟期
6 月 7 日 植	はるみ	(7月26日頃)	7月26日～ 8月20日頃	8月10日	9月18日
	キヌヒカリ	(7月20日 ～25日頃)	7月25日～ 8月19日頃	8月9日	9月17日
	てんこもり	(7月25日頃)	8月1日～ 8月26日頃	8月16日*	9月23日*
6 月 17 日 植	はるみ	8月1日頃	8月1日～ 8月26日頃	8月16日**	9月25日**
	キヌヒカリ	7月26日 ～31日頃	7月31日～ 8月25日頃	8月15日	9月25日
	てんこもり	7月30日頃	8月3日～ 8月29日頃	8月19日*	10月2日*

- ・ 出穂期約15日前～出穂期10日後までの約1か月間は、水稻が最も水分を必要とする時期であるため、水田の水を十分に保つようにする。
- ・ *2018～2021年(4年平均)のデータに基づく。 **2012、2015～2021年(8年平均)のデータに基づく。

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課
平塚市上吉沢1617
TEL : 0463-58-0333 内線 381～384
FAX : 0463-58-4254